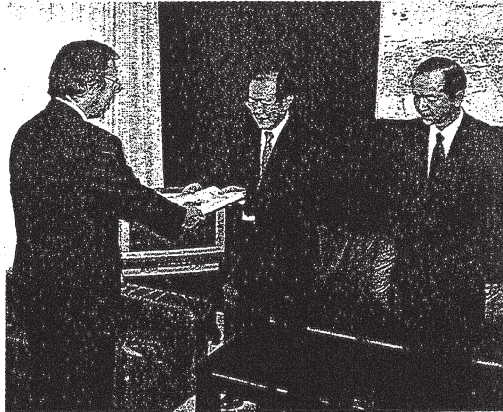


内灘町 エコ活動の成果認定

来年度から小中学校で取り組み

内灘町は来年度から、小中学校の「エコスクール認定制度」を開始する。各校独自に環境教育やエコ活動に取り組んでもらい、一定の成果が認められた場合、町長がエコスクールに認定する。9日、教職員でつくる町学校教育研究会の夷藤一良会長(大根布小学校長)が役場を訪れ、事業計画書を八十出泰成町長に提出した。



エコスクール認定制度の計画書を八十出町長に手渡す夷藤会長(左)＝内灘町役場で

環境意識をしっかりと持った子どもを育てるとともに、家庭への普及を図り、エコタウンづくりを推進する。県内自治体で初の取り組みという。鶴ヶ丘小学校をモデル校に指定するなど、研究会と町教委が昨年度から準備を進めていた。エコ委員会などの推進母体を各校が組織し、毎年五月に計画書

を町教委に提出。環境学習・環境教育、省エネ・省資源、ごみ減量・リサイクルなど四項目で活動を展開する。十二月には事業報告し、認定審査会の評価を受ける。認定は一年更新。
モデル校の鶴ヶ丘小では、段ボール箱を活用した給食残飯の堆肥化、ごみの量の記録、電気、水道使用料のグラフ表示、毎月のエコ通信の発行などに取り組み、成果を挙げた。各校には本年度を助走期間として現状把握に

努めてもらい、無理のない範囲で目標を設定してもらおう。
八十出町長は「子どもたちのチャレンジは人づかりにもつながる」と激励。西尾雄次町教育長も「学校の取り組みは大変大きな力になる」と期待をかけた。
(山森保)

内灘の全小中学校

エコスクールを推進

内灘町教委と町学校町長に提出した。各校教育研究会は環境教育が環境教育、環境保全の実践に向け、エコスクール推進計画を策定し、9日に八十出泰成度で、全小中学校での

教委など計画策定

取り組みは県内初となる。鶴ヶ丘小がモデル校としてエコ活動に取り組み、来年度から町内全校が足並みをそろえて活動を推進する。各校で環境活動計画の作成、活動の上、実施報告書を教委に提出し、審査を経てエコスクールの認定を受ける。評価と必要に応じ

北国朝刊

て計画の見直しもしてもらおう。
鶴ヶ丘小ではごみの量の推移を調べて全体的に啓発したり、エコ通信を発行したりするなどし、家庭でも省エネや環境を意識する効果もあったという。
町では公民館で「いしかわ環境ISO取得も推進しており、さらに全町挙げての環境対応に力を入れる。

資料 6